

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.6 (1964. 6)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640601--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1964年 6月号

論 説

産業社会における昇進の諸条件……………青沼吉松 1
——年齢・出生地・学歴——

新古典派定理と最適分配率……………富田重夫 21

資料・研究ノート

信用形態の展開と「利子生み資本」の前期的性格……飯田裕康 41
——『資本論』第三部第五篇の一論点——

主要先進国の対アフリカ機械輸出……………田中拓男 55
——アフリカの経済発展と対先進国貿易——

新刊紹介

経済学会報告(昭和38年度)

昭和39年上半期総目次

57 卷 **6** 号

昭和39年6月1日発行
昭和39年6月13日発行
昭和39年6月13日発行
昭和39年6月13日発行

昭和39年6月1日発行
昭和39年6月13日発行
昭和39年6月13日発行
昭和39年6月13日発行

三田学会雑誌

昭和三十九年五月号

定価 金二二〇円(送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 57, No. 5

May, 1964

CONTENTS

Articles

Thoughts of J. M. Keynes and M. Friedman on Economic Freedom……………Y. Chigusa 1

The Historical Significance of Formation of "the League of Just"
——An Essay on the International Orientation in the German Working-class Movement in the Nineteen-thirties(1)——……………K. Iida 31

Note and Memoranda

A Note on Agricultural Production Analysis……………Y. Torii 53

Book Reviews

Ch.-E. Perrin, 'Le manse dans la région parisienne, au début du IX^e siècle.' Annales d'histoire sociale, 1945, II……………K. Watanabe 65

Ming-Hsun Li, The Great Recoinage of 1696 to 1699……………H. Iida 70

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 120 yen

新刊紹介

現代アジア社会思想研究会編 『現代共産主義の思想と経済』……………加藤 寛 71 ——変貌する共産圏社会の研究——
五井一雄・柏崎利之輔 共著 加藤 寛・丹羽 春喜 『厚生経済学と経済政策』……………古田 精 司 72
吉田仁風編 『日本のカルテル』……………野 口 祐 73
家永三郎編 『福澤諭吉』(現代日本思想体系 2)……………田 中 明 73

産業社会における昇進の諸条件

——年齢・出生地・学歴——

青 沼 吉 松

はしがき

「日本における大企業経営者の社会的性格」(慶応義塾経済学会編「経済学年報」所載)を補足し、発展させるために、小論は書かれた。前回の論文では、最高経営層のみがとりあげられたが、小論においては、中間経営層も対象のなかに組み入れられた。より広範な経営層について、産業社会における昇進の諸条件、とくに、年齢・出生地・学歴を説明しようとするのが、ここでの課題である。

経営者の階層は最高経営層・中間経営層および下位経営層の三つに分けられる。中間以上の経営層と下位経営層との間には、職能上のはっきりした相違を見出しうるのが通常である。この観点からして、前者を管理者(administrator)と呼び、それを監督者(supervisor)たる後者から区別したほうがよい。下位経営層は受動的な経営者たるにとどまることが多い。かれらは部下に何をなすべきかを指示し、その命令が十分に執行されたか否かを、一定の標準に照らして確認するという職務をもつ。しかし、命令・統制の内容についての自由裁量の余地を、かれらはほとんどもっていない。この故に、かれらはたんに

産業社会における昇進の諸条件